

特集
幕府祈願所
霊雲寺の名宝



2017年4月25日(火)～6月4日(日) 東京国立博物館 本館特別2室

Thematic Exhibition **Treasures of Reiunji Temple, Place of Prayer for the Shogunate**

Tuesday, April 25 – Sunday, June 4, 2017 Room S2, Honkan, Tokyo National Museum

文京区湯島に建つ霊雲寺^{れいうん じ}は、元禄4年(1691)、覚彦浄厳^{かくげんじょうごん}(1639～1702)を開基とし、国家の安泰を祈る幕府の祈願所として創建された真言宗の寺院です。大阪の河内に生まれ、10歳で出家して33歳まで高野山^{こうやさん}に学んだ浄厳は、真言教学や梵字悉曇^{ぼん じしつたん}(サンスクリット)学に関する多くの研究書を著す一方で、仏教徒としての戒律護持の大切さを説いて実践し、学徳兼備の清僧として世に知られました。51歳で江戸に出ると、5代将軍徳川綱吉^{とくがわつなよし}や側用人柳沢吉保^{やなぎさわよしやす}の帰依を受けて湯島に霊雲寺を開き、近世における戒律復興の一翼を担います。また、多くの庶民^{かんじょう}に灌頂、授戒を行ない、啓蒙のためにかな書きの教学書を著すなど、浄厳と霊雲寺は民衆にも寄り添い親しまれる存在となりました。

この特集では、霊雲寺が所蔵する名宝と当館所蔵の関連資料とともに展示し、霊雲寺と寺宝の魅力、開基浄厳の行状について紹介いたします。

Reiunji temple, located in the Yushima area of Tokyo, was founded by the priest Jogon (1639–1702) in the year 1691. Jogon received the patronage of the fifth-generation Tokugawa shogun, Tsunayoshi, and established Reiunji as a temple of the Shingon sect at which the Shogunate could pray for peace in the country. His other accomplishments included writing numerous books on the study of Sanskrit and preaching the importance of upholding the monastic code of conduct. He also ordained many common people and made Reiunji a welcoming place for them. This thematic exhibition presents exquisite objects from Reiunji together with related articles from the Museum's collection, introducing visitors to the importance of this temple and its treasures, and to the accomplishments of its founding priest, Jogon.



大慈心院 花を見はべりて

霊雲寺と浄厳 略年表

和暦	（西暦）	年齢		関連事項
寛永 16 年（1639）	1	11月、河内に上田道雲の子として生まれる。		
慶安元年 （1648）	10	高野山にて悉地院雲雪（第241世座主）を師として出家。雲農と号す。		
明暦 3 年 （1657）	19	雲雪没により、釈迦文院朝遍（第255世座主）を師として同院に移り、交衆を許される。		
寛文元年 （1661）	23	7月、高野山学侶と行人との争論を幕府に訴えるため、朝遍に随行して江戸へ。寛文4年に帰るまで江戸、鎌倉の名所旧跡を訪れる。		
寛文 11 年（1671）	33	正月、朝遍没をきっかけに、故郷河内に帰る。		
延宝元年 （1673）	35	3月、和泉の律院、神鳳寺で菩薩戒を受け、浄厳と改名。		
延宝 5 年 （1677）	39	5月、父の俗宅を改めて延命寺を開創する。		
延宝 6 年 （1678）	40	3月、善通寺有謙の招きにより讃岐へ渡り、1年半にわたって滞在。高松城主松平頼重に謁見する。		
延宝 7 年 （1679）	41	西大寺尊覚から河内の教興寺を譲り受け、戒律を広める拠点として再興する。		
延宝 8 年 （1680）				徳川綱吉、5代将軍となる。
天和元年 （1681）	43	『悉曇三密鈔』（No.4）を編纂、翌年刊行。		桂昌院の祈願所として、護国寺創建。
元禄 2 年 （1689）	51	閏正月、江戸に上る。		
元禄 3 年 （1690）	52	10月、柳沢吉保、浄厳のために、霊岸島（現中央区新川）に瑞雲庵を建てる。		上野孔子廟（聖堂）、神田へ移転。
元禄 4 年 （1691）	53	3月、柳沢邸で将軍綱吉に謁見し、法華経普門品を講じる。8月、幕府より湯島の地3500坪を賜る。10月、霊雲寺創建。12月、牧野備後守成貞寄進の梵鐘と鐘楼が完成する。		
元禄 6 年 （1693）	55	9月21日～10月8日、江戸で初めての結縁灌頂を行なう。11月、御朱印と寺領100石を賜る。		
元禄 7 年 （1694）	56	6月、霊雲寺が関八州真言律宗総本寺に補せらる。7月、法隆寺伝来「梵本心経」「尊勝陀羅尼」（貝葉経、No.5）を写し訳す（No.6）。9月、法隆寺江戸出開帳にあたり、柳沢邸で桂昌院、綱吉に宝物解説を行なう。	7月5日～10月15日、回向院にて法隆寺出開帳。桂昌院、300両と宝物収納箱（No.7ほか）を法隆寺に寄進。	
元禄 8 年 （1695）	57	10月、綱吉、自筆の「不動明王像」（No.8）を寄進する。浅草・入交長左衛門が金胎両界の大日如来像2軀を灌頂殿に安置する（霊雲寺本尊）。	筑波山知足院江戸別院隆光、大僧正となり、寺名を護持院と改める。	
元禄 11 年（1698）	60	12月、幕府より谷中に1300坪を拝領し、菩提所として妙極院と号する。		寛永寺根本中堂、護国寺本堂建立。
元禄 12 年（1699）	61	4月、灌頂殿落慶。		
元禄 14 年（1701）	63	正月、『大般若経』を読誦して鶴姫の疱瘡平癒を祈願する。		
元禄 15 年（1702）	64	6月27日、暑気に当たり、霊雲寺にて没。		

江戸名所図会

さいとうちしゅう 齋藤長秋著　1冊　25.7×18.3cm　江戸時代・天保7年(1836)
 徳川宗敬氏寄贈　QB-10360

Illustrated Book of Famous Places of Edo
 By Saito Choshu (1737–1799)
 Edo period, dated 1836 (Tenpo 7)
 Gift of Mr. Tokugawa Muneyoshi

「大悲心院　花を見はべりて

　　灌頂の閑よりいでてさくら哉　其角」

霊雲寺では目隠しをして敷曼荼羅に華を投げ、落ちた仏と結縁する結縁灌頂が盛んに行なわれた。江戸の名社寺を風景と縁起とで紹介する本書では、霊雲寺で結縁灌頂を受けた後、目隠しの閑と心の閑が同時に晴れる喜びを詠った宝井其角(1661～1707)の句が紹介されています。

浄厳と梵字悉曇学

梵字悉曇とは真言陀羅尼を表記するサンスクリット文字とその意味を指し、真言教学の研究や修法の実践の根本として、真言宗で大切にされてきました。浄厳はとくに梵字悉曇学の再興を目指し、天和2年（1682）には梵字の形、音、意味を解説した『悉曇三密鈔』を刊行。難解な梵字を平易に解説し、出家在家の人びとへの普及に努めました。

こうした活動が広く知られるようになると、阿字や大日如来真言など、浄厳自筆の梵書を求める人びとが増えました。浄厳は彼らに梵書を与える代わりに日課として真言の念誦を誓わせ、さらなる普及と定着を目指したのです。



ぼんしょう あ　じ 梵書阿字
 浄厳筆　1幅　紙本墨書　26.6×22.6cm
 江戸時代・17世紀　霊雲寺

Sanskrit Character Pronounced “Ah”
 By Jogon
 Ink on paper / Edo period, 17th century
 Reiunji, Tokyo

すべての音声、文字、教えの根本となる「阿」字を浄厳が墨書したもの。これを請けた信者は日課として光明真言300遍を誓約した。

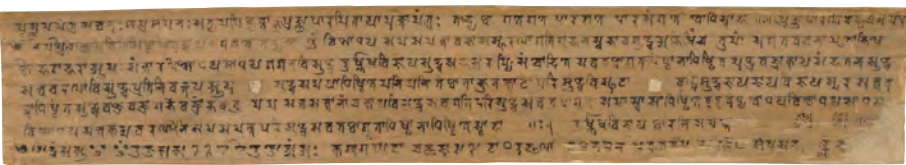
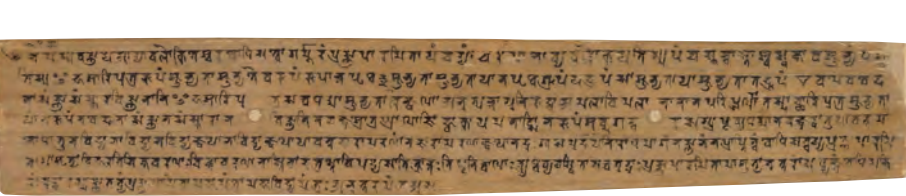


しったんさんみつしう 悉曇三密鈔
 [展示期間：5/16～6/4]

浄厳編　3冊　26.3×18.9cm　江戸時代・天和2年(1682）QA-1776

The Three Elements of Sanskrit (The forms, pronunciations, and meanings of Sanskrit characters)
 Compiled by Jogon / Edo period, dated 1682 (Ten'na 2)

浄厳が悉曇の発音や文法、梵字のしくみや意味などについて解説したもの。



ぼんぼんしんきう ◎梵本心経および尊勝陀羅尼（貝葉経）
そんしう　だ　ら　に [展示期間：4/25～5/14]

2葉　貝多羅葉墨書　梵本心経：4.9×28.0cm　尊勝陀羅尼：4.9×27.9cm　後グプタ時代・7～8世紀　N-8-1

Heart Sutra and Usnisa Vijaya Dharani Sutra in Sanskrit　Ink on tala tree leaves / Late Gupta dynasty, 7th–8th century

古代インドで紙本が定着する以前に盛行した、ターラ樹（オウギヤシなど）の葉を用いた写本。

梵字悉曇とは真言陀羅尼を表記するサンスクリット文字とその意味を指し、真言教学の研究や修法の実践の根本として、真言宗で大切にされてきました。浄厳はとくに梵字悉曇学の再興を目指し、天和2年（1682）には梵字の形、音、意味を解説した『悉曇三密鈔』を刊行。難解な梵字を平易に解説し、出家在家の人びとへの普及に努めました。

こうした活動が広く知られるようになると、阿字や大日如来真言など、浄厳自筆の梵書を求める人びとが増えました。浄厳は彼らに梵書を与える代わりに日課として真言の念誦を誓わせ、さらなる普及と定着を目指したのです。

こうした活動が広く知られるようになると、阿字や大日如来真言など、浄厳自筆の梵書を求める人びとが増えました。浄厳は彼らに梵書を与える代わりに日課として真言の念誦を誓わせ、さらなる普及と定着を目指したのです。

ぼんしょうたいごうだいだいににちよりいしんごん 梵書胎蔵界大日如来真言
 浄厳筆　1幅　絹本墨書
 97.7×38.1cm　江戸時代・17世紀
 霊雲寺

Mantra of the Buddha Mahavairocana of the Womb Realm in Sanskrit
 By Jogon
 Ink on silk / Edo period, 17th century
 Reiunji, Tokyo

浄厳が胎蔵界大日如来の真言を梵字で大書した軸。霊雲寺の新安祥寺流では「ア・ビ・ラ・ウン・キャン」と読む。



訳経記

浄厳筆　1帖　紙本墨書

10.0×28.3cm

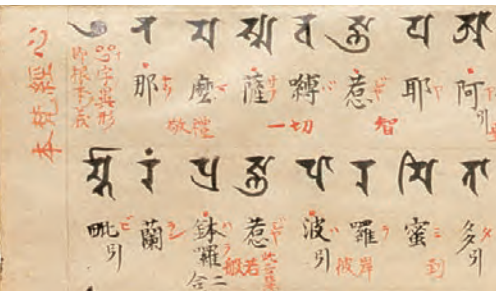
江戸時代・元禄7年(1694)

N-8 附属

Annotated Sutras
 By Jogon
 Ink on paper
 Edo period, dated 1694
 (Genroku 7)

法隆寺に伝来する古代インドの貝葉経を、浄厳が漢訳したもの。

[展示期間：4/25～5/14]



6部分

江戸幕府と 靈雲寺

高野山を下りて受戒した浄厳は、故郷の河内延命寺を拠点とし、高松城主松平頼重や塩飽諸島の商船主らの帰依を受けながら、かつて西大寺叡尊が再興した河内教興寺を復興させます。やがて学徳兼備の清僧として江戸の諸大名からも慕われるようになると、元禄4年(1691)、柳沢吉保を通して5代將軍徳川綱吉の帰依を得、幕府の祈願所として靈雲寺を創建しました。

天下泰平、病氣平癒などの祈禱や経典講説などの公務のなか、靈雲寺は関八州真言律宗総本寺を命じられます。また法隆寺出開帳に協力し、桂昌院や綱吉に宝物解説を行なうなど、活動は多岐にわたりました。



蓋表



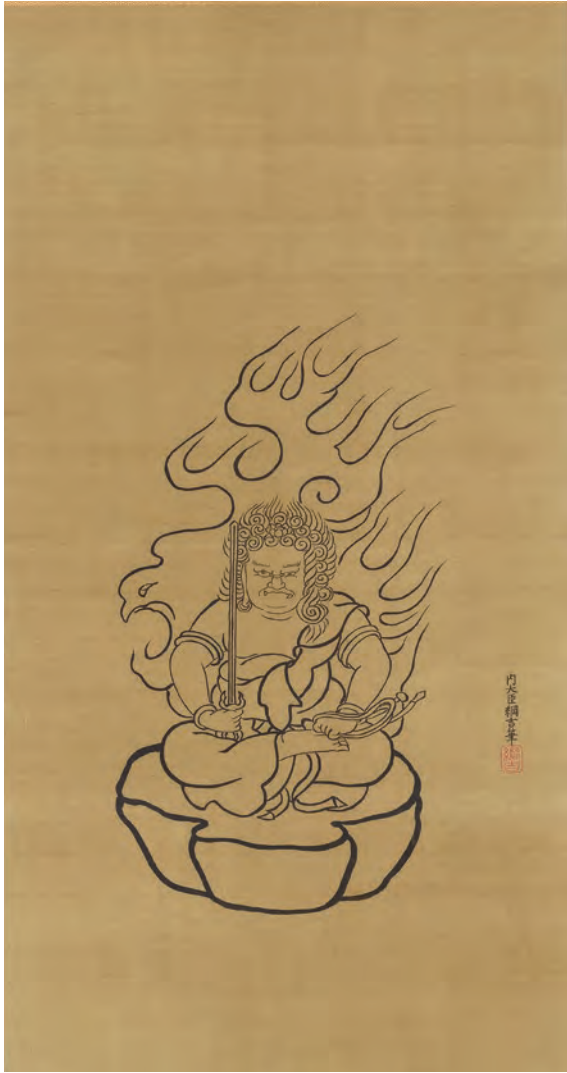
蓋裏

7 ◎糞掃衣付属箱

1箱 木製、漆塗、蒔絵 54.8×47.2×11.0cm
江戸時代・元禄7年(1694) N-33

Box for *Funzoe* (Priest's robe made from rags)
Wood, lacquer, and *maki-e*
Edo period, dated 1694 (Genroku 7)

法隆寺出開帳の際、桂昌院が寄進した箱。
浄厳はこのとき、釈尊糞掃衣や梵網経などの宝物解説を行なった。



不動明王像付属箱（蓋表・蓋裏）

8 不動明王像

徳川綱吉筆 1幅 絹本墨画 102.5×54.0cm
江戸時代・元禄8年(1695) 靈雲寺

Fudo Myō'ō (Acalanatha)
By Tokugawa Tsunayoshi (1646–1709) / Ink on silk
Edo period, dated 1695 (Genroku 8) / Reijunji, Tokyo

綱吉より寄進された自筆の白描不動明王像。
箱と表装裂に三葉葵紋を配し、豪華に仕立てられている。

9 真言律宗靈雲寺末寺院牒

靈麟著 1冊 31.0×23.0cm
江戸時代・天明6年(1786)写 徳川宗敬氏寄贈 QB-12547

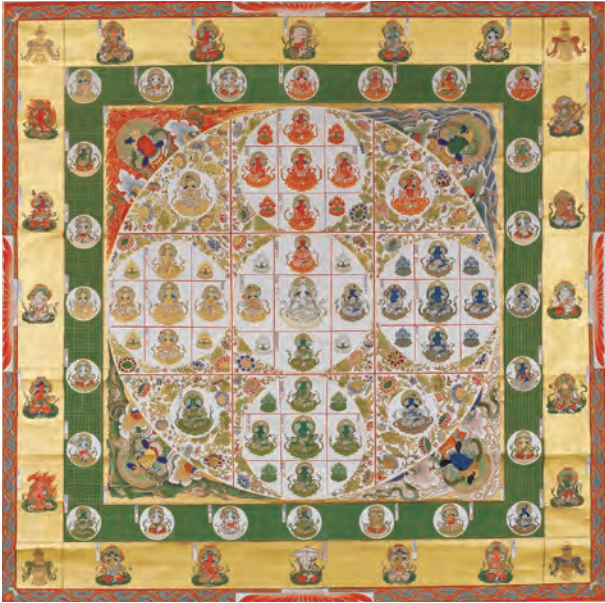
Branch Temples of Reijunji Temple of the Shingon Rishu Sect
By Reirin / Copied in the Edo period, 1786 (Tenmei 6)
Gift of Mr. Tokugawa Muncyoshi

天明6年（1786）、寺社奉行の命により7世靈麟の時にまとめられた、靈雲寺の塔頭7院、末寺46か寺の記録。

靈雲寺の 仏画

江戸時代に創建された靈雲寺には、鎌倉時代に制作された仏画の優品も数多く所蔵されています。しながら、靈雲寺は安政4年(1857)の火災、大正12年(1923)の関東大震災、昭和20年(1945)の戦災と3度の被災によって多くの寺宝や史料を失っており、現存する仏画がいつ、どのような状況で伝えられたかはほとんど知ることができません。

江戸琳派の絵師酒井抱一の箱書をもつ「日吉山王本地仏曼荼羅図」や「十六羅漢図」の箱書からは、江戸時代を通して靈雲寺の有力な信者などから寄進が行なわれた可能性がうかがえます。



金剛界



胎蔵界

10 両界曼荼羅図 2幅 紙本着色 各190.7×191.7cm 江戸時代・17世紀 靈雲寺
Mandala of the Two Realms Color on paper / Edo period, 17th century / Reijunji, Tokyo

浄厳独自の解釈による図像で表わした両界曼荼羅。金剛界は天台宗によくみられる八十一尊曼荼羅となる。



11 ◎弥勒曼荼羅図

1幅 絹本着色 120.9×81.5cm
鎌倉時代・13世紀 靈雲寺

Miroku (Maitreya) Mandala
Color on silk / Kamakura period, 13th century
Reijunji, Tokyo

災害や罪業を消滅させる密教の修法、息災法の本尊で、中央に弥勒菩薩が坐す。

12 ◎諸尊集会図

1幅 絹本着色 90.9×52.7cm
鎌倉時代・13世紀 靈雲寺

Gathering of Deities
Color on silk / Kamakura period, 13th century
Reijunji, Tokyo

大日如来を中心とした五如来、十菩薩、五天、五明王童子を一図に描いた特異な曼荼羅。

13 ◎日吉山王本地仏曼荼羅図

1幅 絹本着色 116.1×55.5cm
鎌倉時代・14世紀 靈雲寺

Mandala of Hie Sanno Honjibutsu (Shinto gods as Buddhist deities)
Color on silk / Kamakura period, 14th century
Reijunji, Tokyo

滋賀・日吉社の風景に本地仏を配した礼拝画。台東区根岸に住み仏画も制作した酒井抱一(1761～1828)による箱書が付属する。

じゅうろくらかんず
14 ◎十六羅漢図
16幅 絹本着色 各123.6×55.2cm
鎌倉時代・14世紀 霊雲寺

Sixteen Arachats
Color on silk
Kamakura period, 14th century
Reiunji, Tokyo

細密に着色される、いわゆる李龍眠（北宋の画家）様と呼ばれる羅漢図。もと京都・大徳寺の塔頭玉林院に伝来した。



第八 伐闍羅弗多羅尊者
Vajriputra



第七 迦理迦尊者
Kalika



第六 跋陀羅尊者
Bhadra



第五 諾距羅尊者
Nakula



第四 蘇頻陀尊者
Subinda



第三 迦諾迦跋釭隴闍尊者
Kanakabharadvaja



第二 迦諾迦伐蹉尊者
Kanakavatsa



第一 賓度羅跋囉脩闍尊者
Pinḍolabharadvaja



第十六 注荼半託迦尊者
Cūḍpanthaka



第十五 阿氏多尊者
Ajita



第十四 伐那婆斯尊者
Vanavasin



第十三 因揭陀尊者
Angaja



第十二 耶伽犀那尊者
Nagasena



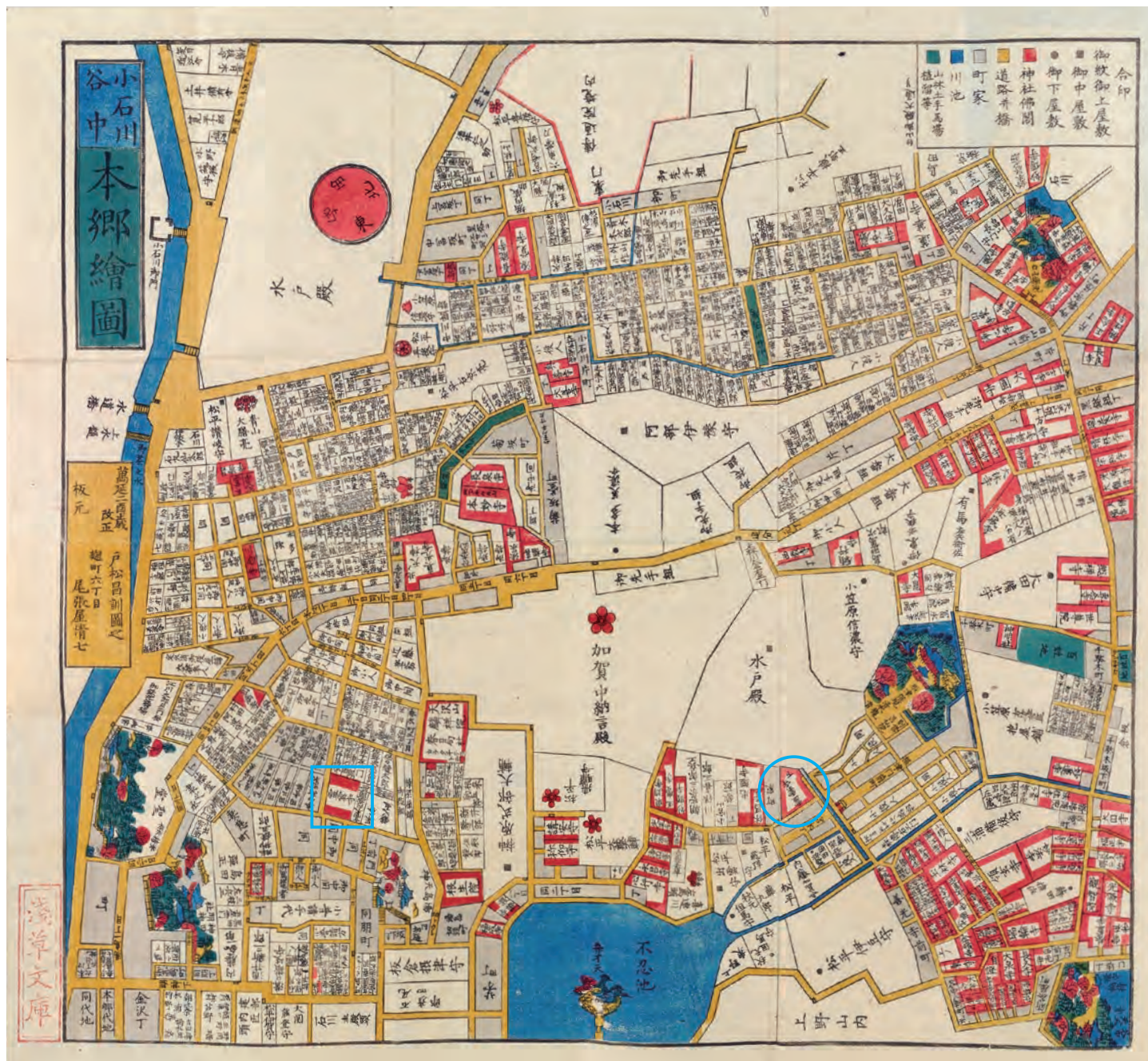
第十一 囉伽羅尊者
Rahula



第十 半託迦尊者
Panthaka



第九 戍博迦尊者
Gopaka



こいしかわやなかほんごうえず
14 小石川谷中本郷繪圖
戸松昌訓編 1 鋪 49.4 × 53.9cm 江戸時代・万延2年(1861)刊
QA-4153-18

Map of Koishikawa, Yanaka, and Hongo Areas
Compiled by Tomatsu Shokun
Published in the Edo period, 1861 (Man'en 2)

本郷の加賀屋敷(現東京大学本郷キャンパス)を中心に、小石川、湯島、谷中、根津、上野の様子を表わした絵図。中央下の青い部分是不忍池で、湯島天神の南西、現在と同じ位置に靈雲寺(□)、北西に菩提所の妙極院(「靈雲寺下」)(○)がみえる。

参考文献

上田霊城『浄厳和尚伝史料集』名著出版、1979年
『靈雲寺』靈雲寺、2001年

凡例 Notes

- 図版番号は本リーフレット内での通し番号とし、東京国立博物館所蔵には列品番号を記載した。
- ◎=重要文化財／Important Cultural Property
- Ownership is Reiunji or Tokyo National Museum

